## 豊前 奥 平 家 代々

就任•退任年

### 全部 東平島成 字記107	官位 従四位下     石高     10万石     区分     譜代     享保2年     1717     誕生年     元禄7 (1694       受領名     大膳大夫     家格     城主     詰間     帝鑑間     延享2年     1745     死亡年     延亨3 (1746)	享保2年、中津に入部。30年間にわたり 城下町 の編成、農村の掌握に努めます。 凶作 のため藩財政が苦しくなり再三 倹約令 を出している。享保14年 藩礼 を発行、 享保15年の 百姓 一揆(いっき)、同17年の西日本を襲った大 飢饉(ききん) などにより 財政は一層困窮し、農民の 逃散(ちょうさん) や捨子が増加したといわれている。 奥平の時世では最も多難な時代であったといえましょう。 【 奥平 昌敦(まさあつ) 】1724-1758 2代藩主。
*** *** *** *** ** ** ** ** ** ** ** **	官位 従四位下     石高     10万石     区分     譜代     享保2年     1717     誕生年     元禄7 (1694       受領名     大膳大夫     家格     城主     詰間     帝鑑間     延享2年     1745     死亡年     延亨3 (1746)	享保2年、中津に入部。30年間にわたり 城下町 の編成、農村の掌握に努めます。 凶作 のため藩財政が苦しくなり再三 倹約令 を出している。享保14年 藩礼 を発行、 享保15年の 百姓 一揆(いっき)、同17年の西日本を襲った大 飢饉(ききん) などにより 財政は一層困窮し、農民の 逃散(ちょうさん) や捨子が増加したといわれている。 奥平の時世では最も多難な時代であったといえましょう。 【 奥平 昌敦(まさあつ) 】1724-1758 2代藩主。
世紀 大陸大夫   家権   別社   活和   密和   活和   密和   活和   密和   注入   活和   密和   大陸   大田   大田   大田   大田   大田   大田   大田		図作のため藩財政が苦しくなり再三 倹約令 を出している。享保14年 藩礼 を発行、 享保15年の 百姓 一揆(いっき)、同17年の西日本を襲った大 飢饉(ききん) などにより 財政は一層困窮し、農民の 逃散(ちょうさん) や捨子が増加したといわれている。 奥平の時世では最も多難な時代であったといえましょう。 【 奥平 昌敦(まさあつ) 】1724-1758 2代藩主。
代         出自下野手動音演主奏甲昌草の二男 借考         季保19年間 (以つき)、同7年の百計人 整成ったといえました。         事保19年間 注きかった。 性差が増加したいわれている。         要保19年間 注きかった。 性差が増加したいわれている。         要保20年間 (国内の元 区の) 性差が増加したいわれている。         要保20年間 (国内の元 区の) 性差が増加したいわれている。         要保20年間 (国内の元 区の) 性差が増加したいわれています。         要保20年間 (国内の元 区の) (国内の元 区の) 性差に対したいわれています。         要保20年間 (国内の元 区域) (国内の元 区の) (国内の元 区域) (国内の元 区域		享保15年の 百姓 一揆(いっき)、同17年の西日本を襲った大 飢饉(ききん) などにより 財政は一層困窮し、農民の 逃散(ちょうさん) や捨子が増加したといわれている。 奥平の時世では最も多難な時代であったといえましょう。 【 奥平 昌敦(まさあつ) 】1724-1758 2代藩主。
□ 全前 東平昌東 正さかっ 経歴	10   出目 ト野宇都宮潘王奥平昌章の二男  備考  	財政は一層困窮し、農民の 逃散(ちょうさん) や捨子が増加したといわれている。 奥平の時世では最も多難な時代であったといえましょう。 【 奥平 昌敦(まさあつ) 】1724-1758 2代藩主。
□ 全前 東平昌東 下さわつ   松原   日本   日本   日本   日本   日本   日本   日本   日		奥平の時世では <u>最も多難な時代であったといえましょう。</u> 【 奥平 昌敦(まさあつ) 】1724-1758 2代藩主。
□ 全部 東平昌東 注きかつ □ 古田 東京		奥平の時世では <u>最も多難な時代であったといえましょう。</u> 【 奥平 昌敦(まさあつ) 】1724-1758 2代藩主。
□ 全前 展平音度 下さらつ 投歴		【 奥平 昌敦(まさあつ) 】1724-1758 2代藩主。
管位便主位下 和高 10万石 区分 課代 規立 1758	- 夕前 東亚里敦   主さあつ	
世報というでは、大き、大きな   東京   東京   東京   東京   東京   東京   東京   東		日代の自用で なき0年(1746)10日東叔ナ郷ギナナ
位 田自原平昌成の二男		
□ 名前 東平昌原   まさか   接世   東西   東京   接世   東京   東京   接世   東京   接世   東京   接世   東京   接世   東京   接世   東京   接世   東京   東京   接世   東京		領内の倹約に力を入れ自分の部屋の灯を2台から1台にしたといわれています。
■ 全前 異常語 まさか 経歴	17   出自  奥平昌成の二男   備考	
■ 全前 異常語 まさか 経歴		商人に対して新たに 運上(うんじょう) を課したり、銀礼の発行をするなどして
□ 名前 平電廠 まさか   24年		<b>藩財政の立て直しをはかりました。</b>
官位接五位下 石高   10万石   区分   設化   宝暦   1786   選生年   至外   1780   死亡年 要永9   1780   大化   安永9年   1780   死亡年 要永9   1780   大化   安永9年   1780   死亡年 要永9   1780   大化   安永9年   1780   死亡年 要永9   1780   東上   1780   東	- 夕前 <b>南亚皇庙</b> (主文が )	
世間の		
大  出自  東平昌教の長男    備考		
しています。		
しています。	<mark>  1</mark> て   出自 奥平昌敦の長男   備考	
## (注意深のことを「オランダの代物」といやかしたともいわれています。		しています。
□ 名前 東平昌明 まさお		
四 名前 東平昌男 序さお   仮置 使立 使五   日本   日本   日本   日本   日本   日本   日本   日		
田田 全前 東平昌男   東さお   経歴   全値 大張大   実格   城主		
四 名前 東平昌野 まさお 終歴 官位 従五位下 石高 10万石 Q分 間代 安永9年 1780 誕生年 安永4 (1775)		
世代 名前 東平昌男 まさお 経歴 で位 従五位下 石高 10万石 区分 諸代 安永9年 1780 誕生年 安永4 (1775) 要領名 大膳大夫 家格 城主 詰間 帝鑑問 天明6年 1786 死亡年 天明6 (1786) 日本		現在その作品は目性寺の 大雅堂 に多数残されています。
全値 従五位下 石高   10万石   区分		政治 経済面でも賢君と称されています。
全価 後五位下 石高   10万石   交分   1780   誕生年 安永4 (1775)   受信   大明6年   1786   天明6年   1786   死亡年 天明6 (1786)   大明6年   1786   天明6年   1786   天明76年   1832   天明76年   183	701 名前   奥平昌男   まさお   経歴	
受領名 大陸大夫         家格         城主         訪問 帝鑑問         天明6年         1786         死亡年 天明6 (1786)           五         名前         裏平昌鷹の長男         橋差         (1896)         第二年 天明6 (1786)         (1896)		
出自 奥平昌庭の長男		
<ul> <li>五 名前 奥平昌高 まさたか</li></ul>	NOTICE AND ACTOR AND ACTOR AND ACTOR	
官位 従四位下 石高   10万石   区分   諸代   天明6年   1786   誕生年   天明6 (1781)   世紀	10   出目  奥平昌鹿の長男   備考	
官位 従四位下 石高   10万石   区分   諸代   天明6年   1786   誕生年   天明6 (1781)   世紀		
官位 従四位下 石高   10万石   区分   諸代   天明6年   1786   誕生年   天明6 (1781)   世紀	エ タ前 東亚昌宮 まさたか	【 奥亚 具高(まさたか) 11781-1855 5代薬主
受領名   大膳大夫   家格   城主   店間   帝鑑間   文政8年   1825   死亡年 安政2 (1855)   御家断絶の危機をのりきるために、		大学 日間(みでにかり 1/100 1000 0)(暦上。  14年末・日間(ませい) 47年末 1000 0)(日本・1000 0)(日本・10
代         出自 薩摩鹿児島藩主島津重豪の二男 備考         薩摩藩上 島津 重豪(レげたけ) の2男を急きょ養子にし、名を昌高と改めさせ、天明6年(1786)8月、5代藩主となりました。 打ち続く 凶性 や寛成の名作(1791)、同ち年(1783)の 町方騒動、 文化9年(1812)の 農民一揆 などが起き、政治 経済面では大きな成果は上っていないようです。 文化面では、寛放文年に 潜校 「進修館(しんしゅうかん)」をつくらせ、 文化のでは、寛放文年に 潜校 「進修館(しんしゅうかん)」をつくらせ、 文化のでは、寛放文年に 潜校 「進修館(しんしゅうかん)」をつくらせ、 文化7年(1810)には「蘭語訳撰』(和蘭辞書)いわゆる『中津辞書』を刊行させています。 文化5年、2月 昌暢(まさのぶ)に家督を譲りましたが、引退後も政治に関与したといわれています。 文化14年には、幕府の治役に任命されている。 また、嘉永6年(1853)ペリーの浦賀来航の時には、開国論を唱え、貿易を許可し、 受領名 大膳大夫 「家格」城主 「詰間」帝鑑問」天保13年 1842 「悪生年 文化11 (1814)」また、嘉永6年(1853)ペリーの浦賀来航の時には、開国論を唱え、貿易を許可し、 担自 奥平昌高の五男 「備考」           八         名前 奥平昌服 まさもと 官位 従五位下 石高 10万石 区分 護代 天保13年 1842 「悪生年 天保1 (1830) 受領名 大膳大夫 「家格」城主 「詰問」帝鑑問」 慶応1年 1865 死亡年 明治34 (1901) 出自 奥平昌暢の二男 「備考」」まさゆき         経歴 官位 従五位下 石高 10万石 区分 護代 天保13年 1842 「悪生年 天保1 (1830) 受領名 大膳大夫 「家格」城主 「詰問」帝鑑問」 慶応1年 1865 死亡年 明治34 (1901) 出自 奥平昌暢の二男 「備考」」まさゆき		
大 名前   東平昌橋   まさのぶ   経歴		
大 名前 奥平昌橋 まさのぶ 官位 従四位下 石高 10万石 区分 譜代 文政8年 1825 誕生年 文化6 (1809)         大 交換名 大膳大夫 家格 城主 詰間 帝鑑問 天保3年 1832 死亡年 天保3 (1832)         対ち続く 凶作 や寛政3年(1791)、同5年(1793)の 町方騒動、文化9年(1812)の 農民一揆 などが起き、政治 経済面では大きな成果は上っていないようです。文化9年(1812)の 農民一揆 などが起き、政治 経済面では大きな成果は上っていないようです。文化9年(1810)には『蘭語訳撰』知蘭辞書」、かわる『中津辞書』を刊行させています。         大化 市では、寛政2年に 滞校 連修館(しんしゅうかん)」をつくらせ、文化7年(1810)には『蘭語訳撰』(和蘭辞書)いわゆる『中津辞書』を刊行させています。         文化8年、2月 昌暢(まさのぶ)に家督を譲りましたが、引退後も政治に関与したといわれています。文化14年には、幕府の治役に任命されている。また、嘉永6年(1853)ペリーの浦賀来航の時には、開国論を唱え、貿易を許可し、日本の長所を取り入れた事備を整えるべきだと主張したといわれています。         文化14年には、幕府の治役に任命されている。また、嘉永6年(1853)ペリーの浦賀来航の時には、開国論を唱え、貿易を許可し、日本の長所を取り入れた事備を整えるべきだと主張したといわれています。         本は手の長所を取り入れた事備を整えるべきだと主張したといわれています。         本は手の長所を取り入れた事備を整えるべきだと主張したといわれています。         本は手の長所を取り入れた事備を整えるべきだと主張したといわれています。         本は手の長所を取り入れた事備を整えるべきだと主張したといわれています。         本に表示を取り入れた事備を整えるべきだと主張したといわれています。         本に表示を取り入れた事備を整えるべきだと主張したといわれています。         本に表示を取り入れた事備を整えるべきだと主張したといわれています。         本に表示を取り入れた事備を整えるできだと主張したといわれています。         本に表示を取り入れた事価を整えるできだと主張したといわれています。         本に表示を取り入れた事価を整えるできだと主張したといわれています。         本に表示を取り入れた事価を整えるできだと主張したといわれています。         本に表示を取り入れた事価を整えるできだと主張したといわれています。         本に表示を取り入れた事価を整えるできだと主張したといわれています。         本に表示を取り入れた事価を整えるできたとといわれています。         本に表示を取り入れた事価を整えるできたとといわれています。         本に表示を取り入れた事価を整えるできたとといわれています。         本に表示を取り入れた事価を整えるできたとといわれています。         本に表示を取り上に表示を取り上に表示を取ります。         本に表示を取り上に表示を取ります。         本に表示を取り上に表示を取ります。         本に表示を取ります。         本に表示を取ります。         本に表示を取ります。         本に表示を取ります。         本に表示を表示を取ります。         本に表示を取ります。         本に表示を表示を表示を表示を表示を表示といる。         本に表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表	<mark>【TV</mark> 出自 <mark>  薩摩鹿児島藩主島津重豪の二男</mark>   備考	薩摩藩主 島津 重豪(しげたけ) の2男を急きょ養子にし、名を昌高と改めさせ、
大 名前 奥平昌帽 まさのぶ         採歴		天明6年(1786)8月、5代藩主となりました。
大         名前         奥平昌橋         まきのぶ         経歴         文化9年(1812)の 農民一揆 などが起き、政治 経済面では大きな成果は上っていないようです。 文化 面では、寛政2年に 藩校「 進俗館(しんしゅうかん)」をつらせ、 文化 面では、寛政2年に 藩校「 進俗館(しんしゅうかん)」をつらせ、 文化 7年(1810)には『蘭語訳撰』和蘭辞書)いわゆる『中津辞書』を刊行させています。 文化 7年(1810)には『蘭語訳撰』和蘭辞書)いわゆる『中津辞書』を刊行させています。 文化 8年、2男 昌暢(まさのぶ)に家督を譲りましたが、引退後も政治に関与したといわれています。 文化 14年には、幕府の治役に任命されている。 また、嘉永6年(1853)ペリーの浦賀来航の時には、開国論を唱え、貿易を許可し、 日 奥平昌高の五男 備考           大田自 奥平昌版 まさもと 宮位 従五位下 石高 10万石 区分 譜代 天保13年 1842 死亡年 天保13 (1842)         大田自 奥平昌 (株子大) 家格 城主 詰間 帝鑑問 天保13年 1842 誕生年 天保1 (1830) 受領名 大膳大夫 家格 城主 詰間 帝鑑問 慶応1年 1865 死亡年 明治34 (1901) 出自 奥平昌暢の二男 備考         まさもと 接歴 原応1年 1865 死亡年 明治34 (1901) 出自 奥平昌暢の二男 備考         大保13年 1842 誕生年 天保1 (1830) 死亡年 明治34 (1901) 出自 奥平昌暢の二男 係者         まさゆき 経歴           九 名前 奥平昌邁 まさゆき         経歴         大保13年 1842 誕生年 天保1 (1830) 死亡年 明治34 (1901)         大保13年 1842 誕生年 天保1 (1830) 死亡年 明治34 (1901)         大保13年 1842 新売金 (1830)         大保14年には、幕府の治役に任命されている。 また、嘉永6年(1853)ペリーの浦賀来航の時には、開始金 (1830)         大保14年には、幕府の治役に任命されている。 また、嘉永6年(1853)ペリーの浦賀来航の時には、第一次 1842 新売金 (1842)         大保14年には、幕府の治役に任命されている。 また、嘉元のより、「1842 (1842)         大保14年には、幕校のより、「1842 (1842)         大保14年には、幕校のより、「1842 (1842)         大保14年には、幕校のより、「1842 (1842)         大保14年には、幕校のより、「1842 (1842)         大保14年には、幕校のより、「1842 (1842)         大保14年には、第一次 1842 (1842)         大保14年には、第一次 1842 (1842) </td <td></td> <td></td>		
宇位 従四位下 石高   10万石   区分   譜代   文政8年   1825   誕生年 文化6 (1809)   文化面では、寛政2年に 藩校「進脩館(しんしゅうかん) 」をつくらせ、	★   名前   東平昌鶴   まさのぶ   経歴	
大化     受領名 大膳大夫   家格   城主   話間   帝鑑間   天保3年   1832   死亡年 天保3 (1832)   文化7年(1810)には『蘭語訳撰』(和蘭辞書)いわゆる『中津辞書』を刊行させています。	一日   大・日本   「日本   「日本   日本   日本   日本   日本   日本	
代       出自   奥平昌館   三さのご用       (備考)         文化8年、2月 昌暢(まさのぶ) に家督を譲りましたが、引退後も政治に関与したといわれています。         文化8年、2月 昌暢(まさのぶ) に家督を譲りましたが、引退後も政治に関与したといわれています。         文化8年、2月 昌暢(まさのぶ) に家督を譲りましたが、引退後も政治に関与したといわれています。         文化8年、2月 昌暢(まさのぶ) に家督を譲りましたが、引退後も政治に関与したといわれています。         文化14年には、幕府の治役に任命されている。また、嘉永6年(1853)ペリーの浦賀来航の時には、開国論を唱え、貿易を許可し、日本の長所を取り入れた軍備を整えるべきだと主張したといわれています。         人 名前 奥平昌服 まさもと 宮位 従五位下 石高 10万石 区分 諸代 天保13年 1842 誕生年 天保1 (1830) 受領名 大膳大夫 家格 城主 詰問 帝鑑問 慶応1年 1865 死亡年 明治34 (1901)         九 名前 奥平昌場 まさゆき 経歴	□区	
大名前       奥平昌飲       まさみち       経歴       文化8年、2男 昌暢(まさのぶ)に家督を譲りましたが、引退後も政治に関与したといわれています。         で位       従四位下       石高       10万石       区分       譜代       天保3年       1832       誕生年文化11 (1814)       また、嘉永6年(1853)ペリーの浦賀来航の時には、開国論を唱え、貿易を許可し、         代       出自       奥平昌高の五男       備者       場本       1842       死亡年天保13 (1842)       相手の長所を取り入れた軍備を整えるべきだと主張したといわれています。         人       名前       奥平昌服       まさもと       経歴       受領名 大膳大夫       家格       城主       計間       帝鑑問       慶応1年       1865       死亡年明治34 (1901)         代       出自       奥平昌嶋の二男       は方       原応1年       1865       死亡年明治34 (1901)         れ       名前       奥平昌邁       まさゆき       経歴	文明名   △暦日入天	
大   名前   奥平昌散   まさみち   経歴   文化14年には、幕府の治役に任命されている。	16   出目  <b>吳平</b> 昌局 <i>00</i> _男   備考	
大   名前   奥平昌散   まさみち   経歴   文化14年には、幕府の治役に任命されている。		
七         名前         奥平昌飲         まさみち         経歴         文化14年には、幕府の治役に任命されている。           官位         従四位下         石高         10万石         区分         譜代         天保3年         1832         誕生年         文化11 (1814)         大島         また、嘉永6年(1853)ペリーの浦賀来航の時には、開国論を唱え、貿易を許可し、           代         出自         奥平昌高の五男         備考         大保13年         1842         死亡年         天保13 (1842)         相手の長所を取り入れた軍備を整えるべきだと主張したといわれています。           八         名前         奥平昌服         まさもと 官位         経歴 「空位         経歴 「安福名」大膳大夫」家格         接歴 「安福名」大膳大夫」家格         大保13年         1842         誕生年         天保1 (1830)         日本         日本 </td <td></td> <td></td>		
官位 従四位下   石高   10万石   区分   譜代   天保3年   1832   誕生年 文化11 (1814)   また、嘉永6年(1853)ペリーの浦賀来航の時には、開国論を唱え、貿易を許可し、	上 名前 魔巫具僧 まさみち   経歴	
では名 大膳大夫     家格     城主     詰間 帯鑑問     天保13年     1842     死亡年     天保13 (1842)       八 名前 奥平昌服 まさもと 官位 従五位下 石高 10万石 区分 譜代 天保13年 1842 誕生年 天保1 (1830)     受領名 大膳大夫 家格 城主 詰間 帝鑑問 慶応1年 1865     死亡年 明治34 (1901)       代 出自 奥平昌場の二男     備考		
代     出自 奥平昌高の五男     備考       八 名前 奥平昌服 まさもと 経歴 官位 従五位下 石高 10万石 区分 譜代 天保13年 1842 誕生年 天保1 (1830) 受領名 大膳大夫 家格 城主 詰間 帝鑑間 慶応1年 1865 死亡年 明治34 (1901) 出自 奥平昌暢の二男       九 名前 奥平昌邁 まさゆき     経歴		7
九 名前 奥平昌譲 まさゆき     経歴       では 従五位下 石高 10万石 区分 譜代 天保13年 1842 誕生年 天保1 (1830)       受領名 大膳大夫 家格 城主 詰間 帝鑑間 慶応1年 1865 死亡年 明治34 (1901)       九 名前 奥平昌邁 まさゆき       経歴		別 相手の長所を取り入れた軍備を整えるべきだと主張したといわれています。
人     名前     奥平昌服     まさもと     経歴       官位     従五位下     石高     10万石     区分     譜代     天保13年     1842     誕生年     天保1 (1830)       受領名     大膳大夫     家格     城主     詰間     帝鑑問     慶応1年     1865     死亡年     明治34 (1901)       代     出自     奥平昌嶋の二男     備考	175   出自 奥平昌高の五男   備考	
官位   従五位下   石高   10万石   区分   譜代   天保13年   1842   誕生年 天保1 (1830)       受領名   大膳大夫   家格   城主   詰間   帝鑑問   慶応1年   1865   死亡年 明治34 (1901)       出自   奥平昌暢の二男   備考         九 名前   奥平昌邁   まさゆき   経歴		
官位   従五位下   石高   10万石   区分   譜代   天保13年   1842   誕生年 天保1 (1830)       受領名   大膳大夫   家格   城主   詰間   帝鑑問   慶応1年   1865   死亡年 明治34 (1901)       出自   奥平昌暢の二男   備考         九 名前   奥平昌邁   まさゆき   経歴	八 名前 南亚星昭 まさもと	
受領名 大膳大夫     家格     城主     詰間 帝鑑問     慶応1年     1865     死亡年 明治34 (1901)       出自 奥平昌嶋の二男     備考       九     名前 奥平昌邁 まさゆき     経歴		
代     出自   奥平昌暢の二男     備考         力     名前   奥平昌邁   まさゆき     経歴		
大 名前 奥平昌邁 まさゆき   経歴	<u>/ 1865                                      </u>	)
大 名前 奥平昌邁 まさゆき   経歴	10	
■	<b>官位 従五位下 石高 10万石 区分 譜代 慶応1年 1865 誕生年 安政2 (1855</b>	
受領名   美作守   家格   城主   詰間   市鑑間   明治2年   1869   死亡年 弘化1(1884)		
<mark>↑し</mark> 出自 <mark>伊予宇和島藩主伊達宗城の三男</mark> 備考 備考	・・   田日  プアナ州局衛土伊廷示拠の二男   順考	